

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立北部中学校	学校 No.	51
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

①総合的な学習の時間における福祉教育
 中学1年の総合的な学習の時間における福祉教育の実践
 ・福祉実践教室（5月実施）に向けた事前学習・事後学習
 ・文化展（11月実施）におけるレポート展示
 ・一宮東特別支援学校との交流活動（12月実施）

②委員会活動
 緑化委員会・美化委員会による校内環境整備
 生徒会執行部・生活委員会によるあいさつ運動、募金活動



2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

①総合的な学習の時間における福祉教育
 中学1年の総合的な学習の時間のテーマを「福祉」とし、福祉実践教室や一宮東特別支援学校との交流活動に対する事前学習や事後学習などを行った。
 福祉実践教室では、「車いす」「手話」「要約筆記」「点字」「ガイドヘルプ」「高齢者疑似体験」の6講座に分かれて実践を行った。生徒たちは福祉体験を通して、社会福祉に対する理解を深めたり、思いやりの心を持つことの大切さを学んだりすることができた。また、学んだことをレポートにまとめ、11月の文化展にて展示し、生徒や保護者、地域の方々に見ていただく機会を設けた。
 一宮東特別支援学校との交流活動では、交流活動（交流ゲーム）や学習活動の発表を通して、一宮東特別支援学校の生徒との交流の輪を広げることを目的としている。グループでの交流や全体での交流に向けて、生徒たちが主体的に活動内容を企画・立案・運営を行った。今年度は、春の校外学習で体験した郡上踊りを一緒に踊る機会も設けた。

②委員会活動
 緑化委員会では、校内の花壇の整備や花の水やりを行い、潤いのある環境づくりに努めた。美化委員会では、ゴミの分別や清掃道具の点検、ペットボトルキャップ運動の推進など、学校環境の美化やボランティア活動に努めた。



3. 福祉教育の成果と今後の課題

本校は、行事だけで完結するのではなく、事前・事後学習を含めた福祉教育の実践心がけている。しかし、総合的な学習の時間における取り組みは、1年生が主となっている。また、委員会活動は一部の生徒に限られた取り組みとなっており、全校生徒が福祉教育について考える機会を増やしていくことが今後の課題である。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2024 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中部中学校	学校 No.	52
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいをもって、福祉教育を推進してきた。本年度も、社会福祉推進校として、「人権教育・思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉教育推進委員会、学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。

○福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。

○ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、弱者への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活にいかす。

2. 福祉教育の具体活動の内容（活動の記録）

（1）福祉実践教室（2024. 10. 22）

初めに資料を通して、障がいのある方の立場を理解するとともに、ユニバーサルデザインなど障がいの有無に関わらず暮らしやすい社会を実現するための取り組みについて学習した。福祉実践教室当日は、最初に講師の方からお話を伺った後、車いす体験、手話、高齢者疑似体験、点字、視覚障害者ガイドヘルプ、要約筆記、認知症理解の各講座に分かれ、講師の方のお話を聞いたり、実際に体験をしたりした。体験後の感想には「実際に操作してみると、カーブやわずかな段差がものすごく大変なことが実感できた（車いす体験）」や「話を聞いて、頭の中で内容を整理しながら書きとめることの大変さがわかった（要約筆記）」などであった。福祉実践教室を通じて、障がいについての理解を深めたり思いやりの心をもったりすることができた。



（2）資源回収活動（毎月1回）

本校では、SDGsに関する活動の一つとして、美化委員会による資源回収活動を行っている。毎月1回、町内の資源回収日に、校内で回収した新聞紙や段ボール、雑紙などを、本校校門近くの集積場所まで運び出している。収益金の一部は、町内の高齢者福祉のための活動に使われている。資源回収活動を通して、地球環境を守る大切さに気づき、日ごろお世話になっている地域の方々に貢献できる喜びを感じることができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

福祉実践教室では、障がいの方々の生活を体験することで、障がい者の方々にどのような気持ちで接するとよいか、また、自分たちにできることは何かを考えるよい機会となった。福祉に関する実践的な体験活動や学習を通して、思いやりを行動に移すことだという基本的な心構えも学ぶとともに、社会参画の重要性に気づくことができた。今後もこのような活動を継続していくことが必要であると感じた。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立南部中学校	学校No.	53
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 本校の教育目標
心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、思いやりのあるたくましい生徒を育成する。

(2) 福祉教育目標
社会福祉に関する実践学習を通して、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア・社会連帯の精神を養う。

(3) 手立て・計画

- ①体験活動…障害者の立場を理解する体験や障害者の活動を支援・援助する体験活動を行う。
- ②理解を深め、意識を高める…障害者を理解し、思いやりのある接し方を身につけることで、福祉・ボランティアの意識を高める。
- ③実践力を養う…広くボランティア活動参加を呼びかけ、いろいろな場を実践させることで、進んで福祉活動、ボランティア活動ができる生徒を育成する。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

4月・浅野つつじ祭りボランティア参加
7月・R6年度青少年等ボランティア体験学習事業参加（夏休み利用）
11月・赤い羽根共同募金の実施
12月・緑化委員が運動場のフェンス周りにパンジーの苗を植える緑化活動を行った。
・講演会「今を大切に」大棟 耕介氏（ホスピタルクラウン）
・人権標語作成
1月・1年を通してのあいさつ運動、リサイクル活動

3. 福祉教育の成果と今後の課題

夏休みのボランティア活動では、高齢者との関わり方を学んだり、障害がある人たちとのコミュニケーションをとったり、病気や障害のある子どもたちの支援をしたりと、さまざまな体験をした。障害がある方やその支援に携わる方の生活や工夫について学ぶことができた。

講演会では、「友達を大切にすること」「人の期待には応えること」「今を大切にすること」「勇気をもって挑戦し続けること」について、心あたたま話を聞いた。子どもたちの感想では、
「今」という時間の大切さ、当たり前のように過ごしているいつもの生活の尊さに改めて気づかされた、との記述があった。

今後の課題は、ボランティア体験学習は希望者が多かったため、3年生を中心に参加することにした。来年度は1, 2年生の希望者も参加できるよう計画していきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 6 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗中学校	学校 No.	5 4
-------	-----------	--------	-----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は平成 4 年度に、社会福祉協力校の指定を受け、「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいをもって、福祉教育を推進してきた。本年度も、「一宮特別支援学校との交流、社会福祉推進校としての取り組み等を通じた人権教育、思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉ボランティア委員会、各学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画を立案し、実践に取り組んだ。

- 一宮特別支援学校との交流を通して、障がいのある方への理解推進を図る。
- 福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。
- ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、様々な人への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活に生かす。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 活動名 特別支援学校交流（1 年）

(2) 活動時期 6 月 1 2 月

(3) 活動計画 6 月 一宮特別支援学校にて交流会
1 2 月 葉栗中学校にて交流会

(4) 活動状況

本年度は一宮特別支援学校の生徒と本校の生徒が 2 6 のグループに分かれ、事前に自己紹介のメッセージを送りあった上で、実際に交流会を図った。

(5) 成果と反省

昨年度は 4 クラスを 2 クラスずつに分けて交流したが、今年度は 5 クラス一斉に交流会を行うことができた。内容としては、初めに自己紹介を行い、1 回目は『好きですか嫌いですかゲーム』と『○△×ゲーム』、2 回目は『1 2 3 ダッシュ』のゲームを行った。交流会をする上で、「お互いを知る」ということから、自己紹介カードを作成したが、多くの生徒が一宮特別支援学校の生徒の自己紹介カードを見ながら、好きなものは何か、喜んでもらうにはどうしたらよいのかを考え、試行錯誤しながらカードの作成に取り組んでいた。完成したカードを一宮特別支援学校に届け、当日一緒にいるグループのカードを見てもらった。当日の交流会では、自己紹介カードを持参してもらい、カードを見ながらお互いに自己紹介をし、ゲームも大いに盛り上がっていた。





【交流会の様子】

3 福祉教育の成果と今後の課題

本校では、めざす生徒像の一つとして「心豊かな生徒の育成」を掲げている。一宮特別支援学校との交流も約 3 0 年続き、福祉推進校としての活動は 3 0 年を数えている。これからも直接交流できる場を大切にしていきたい。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成中学校	学校 N o .	55
-------	-----------	----------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

目標

- ・社会福祉に関する実践学習の機会を通して、福祉への関心を高める。

計画

- ・福祉実践教室、一宮東特別支援学校との交流会、ボランティア福祉体験学習、生徒会による募金活動やあいさつ運動 などの実践

推進体制

- ・福祉実践教室は、1 年学年主任を中心に計画し、第 1 学年の学習内容として活動を行う。
- ・一宮東特別支援学校との交流会は、2 年学年主任を中心に計画し、第 2 学年の学習内容として活動を行う。
- ・ボランティア福祉体験学習は、福祉教育担当教師が中心となり、ボランティア活動団体や事業所等と連携しながら活動を行う。
- ・生徒会による募金活動やあいさつ運動は、生徒会担当教師が中心となり、定期的に活動を行う。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- ・福祉実践教室（1 1 月）
 - 「車椅子」「ガイドヘルプ」「高齢者疑似体験」「手話」「点字」の 5 つの講座の中から 1 つの講座を受講して、さまざまな体験活動を行った。
- ・一宮東特別支援学校との交流会（1 2 月）
 - 一宮東特別支援学校の生徒を本校に招き、交流会を実施した。本校生徒が企画したレクリエーションに参加したりダンスを踊ったりすることで、交流を深めた。
- ・ボランティア福祉体験学習（7, 8 月）
 - 参加希望者を募り、「あいふるの里」「たんぼぼ鴨の里」「あすか」「いずみ作業所」「いずみ第 2 作業所」の福祉体験学習に参加した。
- ・募金活動（5 月, 1 1 月）
 - 「緑の羽根」「赤い羽根」の募金活動を行った。
- ・あいさつ運動
 - P T A と職員、代表生徒が連携し、生徒が登校する時間に門に立ち、あいさつを交わした。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

成果

福祉実践教室では、講師の先生の話や体験活動を通して、多くの生徒が障がい者の生活や気持ちを理解し、関心を高めることができた。また、障がい者への対応の仕方について改めて考えることもできた。

一宮東特別支援学校との交流会では、楽しい会にするにはどうしたらよいか考え、様々な企画を検討したことで、相手のことを考えて準備をする大切さを学ばせることができた。

今後の課題

今年度行った活動は、毎年行っているものだが、毎年恒例の行事として取り組ませるのではなく、活動の意義を理解させ、事前学習や準備をきちんと行い、それぞれの活動がより中身のあるものにしていきたいと考える。生徒会が主体となって活動するものとして、何かできることがあれば、取り組ませていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。